



たつみっこのための

すたなび

NO. 23

辰美小学校



家族の思い ～ 保護者アンケートより ～



ご家庭への情報発信の一つ「たつみっこのためのすたなび」を発行し、まる2年が過ぎました。辰美っ子にとってどんな力が必要かを検証し、子どもたちが生涯にわたり、学ぶ姿勢を持ち続けられることを願い、学校と家庭との連携のための通信が「すたなび」です。しかし、学校からの発信だけに終わっていないか、内容の偏りはないか等、見直す時期にもさしかかりました。さらに内容を充実させたいと思っておりますので、今回のアンケートにお寄せいただいた声を参考にさせていただきます。これからもよろしくお願いたします。

平成22年2月17日発行 第1号

たつみっこのための
すたなび
NO. 1
辰美小学校

～2010年は、国民読書年～ じゃあ、読もう！

ご家族は、お子さんが心豊かに思いやりをもって、できれば思慮深く育ってほしいと願っておられると思います。不安の多いこの社会を人間らしく生き抜いてほしいと。そのために、大人は何をすればよいのか・・・まず、大人も子どもも、本を開いてみることから始めましょう。

◆人は、本がなくても生活できます。でも、本というのは人生にどうしても必要です。
(文字・活字文化推進機構会長：福原義孝氏)

◆本を読むと、いろいろな人生の疑似体験ができます。さらに自分と考え方の違った人があることも知るはずで、それが、他者を思いやる気持ちにもつながるのでは。
(文部科学大臣：川端達夫氏)

◆読書は、強制すべきものではありませんが、多くの言葉を知り、考える力や豊かな想像力を育てくれる最も手軽なものだと思います。
(作家：林 真理子氏)

— 読売新聞 2010年1月10日 —

注：「すたなび」とは、「Study Navigation」の略語で、学習の指針の意味です。

家庭を「学び」の環境に ～主体的な学びをめざして～

その1 基本的な生活習慣を見直しましょう
早寝早起き・朝食・朝の排便を大切にしましょう。

その2 家庭の学習環境を整えましょう
決まった場所で一定の時間、テレビを消して学習に集中しましょう。

その3 学習習慣の定着をめざしましょう
基本的な学習習慣や自学自習の習慣を身に付けましょう。

その4 保護者も家庭学習に関わりましょう
子どもの学習内容に関心をもち、励ましながら一緒に取り組む姿勢を持ちましょう。

小学校1・2年生：基本的な学習習慣を身に付けさせる 学びの楽しさを知る	学習時間のめやす 20～30分
小学校3・4年生：自主的な学習習慣を身に付けさせる 「知りたい」「学びたい」	学習時間のめやす 30～60分
小学校5・6年生：自学自習の習慣を身に付けさせる 「主体的な学び」へ	学習時間のめやす 50～90分

「読書は、心の栄養」
言葉に出会って、心が「太る」

本校でも、「朝の読書」スタート！
8：25～35までの10分間、辰美小学校は静寂につつまれています！
全校生と職員みんなが、読書をしています。全員が本の準備ができるかなどと心配していましたが、ご家庭のご協力のおかげで、見事なほどの静けさです。喜ばしい第一歩です。

～はじめに～
朝の読書の教育的効果
① 集中力がついた。
② 他人の気持ちがわかるようになった。
③ 読書が好きになった。
④ 国語力が向上した。
⑤ 読解力が向上した。
⑥ 進級が減少した。
⑦ 不登校がなくなった。
⑧ いじめが姿を消した。
⑨ 書店へ行く回数が増えた。
⑩ 友人や家族との会話が増えた。
⑪ 学級崩壊を立て直すことができた。

朝の読書推進協議会 理事長 大阪 笑子
子どもは本来、本が大好きであり、自由な発想で本を選ぶ天才でもあります。しかし、家庭や学校で本を読む環境がなかったために本と出会う機会が少なかったといえるでしょう。読書は豊かな感性と考える力を育み、人生をより深く生きていくために欠かせないもので、基礎教育や学力向上等の教育的効果があると実証されています。

「朝の読書」運動は、1998年に千葉県的女子高校で提唱され全国の学校に広がりを見せております。導入した学校からは、「子どもたちに落ち着きが出てきた」「進級減少した」「不登校やいじめがなくなった」や「学級崩壊を立て直すことができた」等々、想像を超える効果が報告されています。一略一貴校のよりよい「朝の読書」活動の一助になれば幸いです。

注：「すたなび」とは、「Study Navigation」の略語で、学習の指針の意味です。

《 保護者アンケートの声 》

「参考にしている。」・「増刊してほしい。」・「絞り込んだテーマがほしい。」
「カラー刷りにしてほしい。」という声が寄せられました。また次のような具体的なテーマも挙げていただきました。貴重なご意見をありがとうございました。

テーマ例

- ・家庭学習のアンケート（平均時間・帰ってすぐしているか・親が見ているか等）
- ・学年別・性別の子どもの心理
- ・本校の学習内容
- ・先生の努力していること
- ・先生の子どもの頃の学習方法・子育ての経験談
- ・子どものやる気の持たせ方
- ・効果的な復習の仕方や方法
- ・一人の時間の過ごし方・本を読む楽しさ

家族の思いは・・・うまく伝わっているのでしょうか？

- ☆自分の子どもが可愛くてたまらない、パパさん、ママさん。
- ☆子どもに対して愛情表現の仕方がわからない、お父さん・お母さん。
- ☆子どもの負担になるほど、愛情たっぷりのご家族のみなさん。



子育てをしていく上で、親は子どもが『何を考えているの・・・』と思ったことが何度かあると思います。こんな時、何を考えているのかがわかれば、親も子どもに適切なアドバイスや話ができるのでしょね。しかし、人間は人の心の中を読むことは出来ません。私たち大人や親の思いは、子ども達に本当に伝わっているのでしょうか。不安になります。しかし子ども達は日々成長しています。人格が形成される3歳～12歳のこの期間に、学校と家庭が子ども達の健やかな成長を願い、手をとり合っていきたいと思っています。

すたなび20号(23.11.14)では、「子どもと共有する時間」をテーマに、本校の先生方から「我が子が小学生だった頃」をインタビューしました。今年度最終号にあたり、校長先生にお伺いしました。

安井 由美 校長先生

「仕事の関係で、ほとんど母が二人の子どもの面倒をみてくれました。かゆいところに手が届くほど、愛情をもって育ててくれました。おかげで優しい子どもたちに育ちましたが、なかなか自立しなくて、「決断力がない」と言われました。

上の子には毎日必ず本の読み聞かせをしました。好奇心旺盛になり、文学部に進みました。下の子には、上の子が読み聞かせをしてくれました。忙しい親を思っか、優しい気持ちが育ち、養護教諭の道を選びました。スキーに行ったり、うずしおマラソンにも出たり、スポーツ系の体験をよくさせました。二人とも、塾にはほとんど行かせませんでした。習字やピアノなどの習い事は、本人の希望にまかせました。我が子はどうしても溺愛してしまいます。私自身、反省することが一杯です。この反省を辰美小の子どもたちに生かしたいと思います。生活習慣や生活の規律は、成長の基盤になるものです。親の姿勢で子どもは学びます。子どもたちが心身ともに健全に成長していくため、家庭と学校が連携していきたいと思っています。

来年度もいろいろと学校から発信していきます。よろしくお願致します。」

